

時代を築く

渡辺 利夫



れていい。主権を侵害されても冷静に冷静と言つぱかりの日本の外交の方がいかにも異様なのである。

中国の謝罪要求に応じるつもりはないと言ふ首相は言うが、もう遅い。尖閣諸島なら隙を見せれば突く、退けば押す、というのは人間関係においては不徳義であろうが、国家間や民族間ににおいてはむしろ常套である。身も蓋もな

い。東シナ海の制海権を求めて強硬策を繰り返す中国に対して強硬策に対する彼の対応にしながら、主権侵害に全力をいよいよ頑ななものとしない日本を、米国が見限らないとは言えない。実際、尖閣諸島は日本同盟の対象外だと発言した米国要人が、駐日大使としてかつて赴任していただけないか。

漁船衝突事件の學習効果

尖閣諸島周辺で領海侵犯した中国漁船が、日本の海上保安庁の巡視船に故意に衝突するという事件が起つた。それに伴い中国人船長を逮捕、拘置したのは当然であった。船長逮捕に対する中国の反応が、まずは東シナ海ガス田共同開発交渉の延期、次いでフジタの社員四人の拘束、レアースと称される希少金属の輸出停止等であつた。これに対し、あらう」とか、那覇地検は船長を処分保証のまま釈放してしまったのである。地検は釈放の理由を、将来の中関係を配慮しての」とだと述べた。記者会

見に臨んだ那覇地検次席検事の口元をテレビで見ながら、私はしばし呆然であった。再に察知し、すかさず中国政府

力感を抱かずにはおれない。

日本の政権の無氣力を鋭敏に察知し、すかさず中国政府

本は所詮はこの程度の対応に終わるという「學習」を中国にさせてしまつたからである。日中間線を越え、周辺海域から尖閣諸島へと向かう中国船舶の数は着実に増加しているに違いない。

この學習効果は韓国やロシアに及んで、竹島や北方四島の領有権に対する彼らの対応

にしながら、主権侵害に全力をもって抗しようとしている。現に、衝突事件後に開かれた中日首脳会談は、領土問題についての中日「共闘」を示唆する声明を発表して終わつたではないか。

び、あらう」とか、仙谷由人は「謝罪と賠償」要求を突き付けてきた。中国の要求に理解するが、その結果、菅直人首相も前原誠司外相も柳田稔法相も政府による司法介入はしないことは無論だが、いは言いたいのはそのことではない。言い古された箴言だ第一義であり、友好や善隣や友愛は第一義を促すための手段にすぎない。外交の衝に当たる者は胸中にそういう構え

い物言いだが、これが外交の真実なのである。国際関係とは今日でもなおエスノセントリズム（自民族中心主義）がないことは無論だが、いは言いたいのはそのことではない。第一義であり、友好や善隣や友愛は第一義を促すための手段にすぎない。外交の衝に当たる者は胸中にそういう構え

の姿を眺めて、西沙諸島、南沙諸島での領海問題をめぐつて中国との間に緊迫の課題を抱える東南アジアの国々は、心底深く日本の対応に失望しているに違いない。失望が侮蔑にまで変わっていくことを私は恐れる。

米国政府から、尖閣諸島は日本の領土であり、それゆえ日米同盟によって防衛されるべき対象であるとの声明を受けたが、安堵するのまだ早

い。東シナ海の制海権を求めて強硬策を繰り返す中国を前にしながり、主権侵害に全力をもって抗しようとしている日本を、米国が見限らないとは言えない。実際、尖閣諸島は日米同盟の対象外だと発言した米国要人が、駐日大使としてかつて赴任していただけないか。

東アジアの大國日本が中国の強圧に易々と身を屈すれ

いか。

(拓殖大学学長)